

# 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	東淀川
学 校 名	菅原小学校
学校長名	渡邊 哲朗

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・菅原小学校では、第6学年 106名

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率について、今年度は昨年度より少し改善が見られたものの、全国平均・大阪市平均と比べて低いという結果となった。しかし、本校が課題としている平均無解答率については全国より少なくなり問題に向き合うことができている。国語Aでは「読むこと」が全国平均から特に低く課題となった。国語Bは全般的に低く、言語力を課題として取り組んでいきたい。算数Aでは「図形」について全国を大きく上回っている。しかし、他の分野では全国を下回っているため、全体的にはやや低くなっている。基礎・基本の定着を図っていきたい。算数Bでは「図形」は全国に近いものの、全体的に低くなっている。今後、問題の読み取りといった部分を改善し学力向上に努めたい。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

### [国語]

大阪市との比較では「書くこと」の領域は上回り、全国との比較では、全般的に昨年度よりも改善はみられる。しかし、全般的に全国よりも低く、学力の基本である言語力の向上が大きな課題なった。今後、特に低かった「読むこと」を中心に取り組んでいきたい。

### [算数]

算数Aについては習熟度別少人数授業の取り組みの成果が全国平均に近くなっている。特に「図形」の領域では全国平均を上回っている。しかし、算数Bではその成果が表れていないことから問題の意図を読み取る力を育成する必要がある。

国語・算数とも無解答率は全国平均を下回り、問題取り組む姿勢については一定の成果を上げることができている。今後も無解答率が全国を下回るよう、粘り強く問題に取り組む児童を育みたい。

質問紙調査より

いじめに関する意識は高く、1年を通じて行っている取り組みが成果を上げている。また、この調査では「自分には良いところがある」では肯定的な回答は58・5%であったが今年度自尊感情を高める取り組みを行い、10月現在67,0%となっていることから、児童の自尊感情の向上や学習への取り組みを計画し継続していくことがそれらの向上になることがわかった。家庭での生活では、スマートフォンなどのゲームに費やしている時間がここ数年と同様多く、地域や家庭と連携して自主学習の時間に移行させていきたい。全国平均を大きく下回る「読書が好き」の項目についても、今年度初めから図書館などの環境整備を行っている。児童の意識の変化に期待している。

## 今後の取組

学力向上のためには、言語力の向上がカギになる。「主体的・対話的で深い学び」を行うためにも基礎学力としての言語力を向上したい。昨年と同様、論理的思考が育成できていないことも上記の言語活動の不十分さや読書量の不足などが一因と考えており、グループ討議などの授業形態の工夫や図書活動の充実を図り、今後につなげていきたい。また、本校は今年度、研究教科を算数としているので、研修を通じて算数全般の学力向上に努めたい。特にB問題では問題の意図を読み取ることができない児童も多いため、振り返りプリントやフォローアッププリントなどを活用頻度を高める。習熟度別少人数授業を今まで以上に活用し、特に基礎的なクラスの理解力を高めていきたい。学習規律や自尊感情については現在行っている「素敵な自分カード」の取り組みを継続していくことで向上を図りたい。

## 【 全体の概要 】

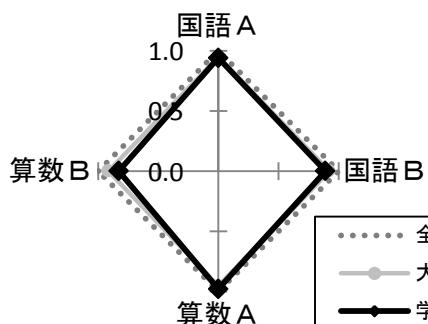
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	70	51	77	38
大阪市	71	53	75	42
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

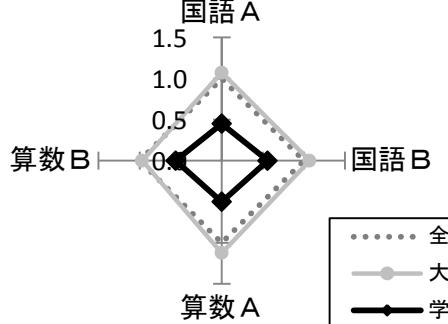
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	1.3	2.4	0.8	3.6
大阪市	3.0	4.6	1.8	6.2
全国	2.8	4.3	1.6	6.4

平均正答率(対全国比)



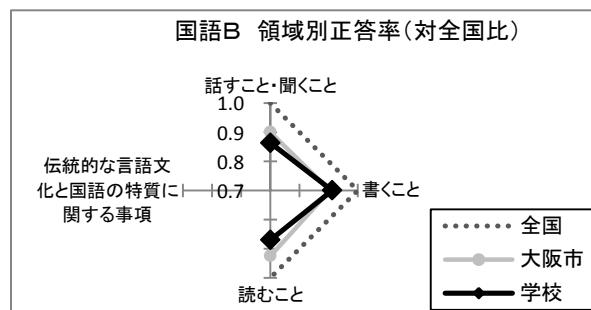
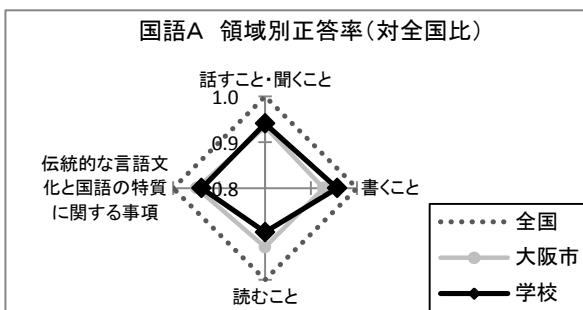
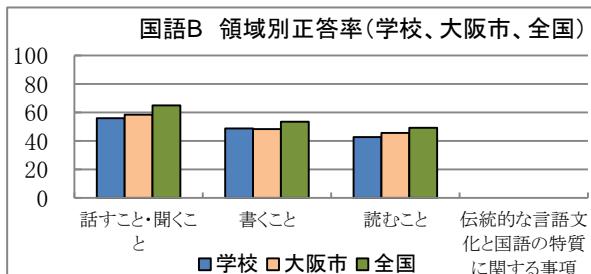
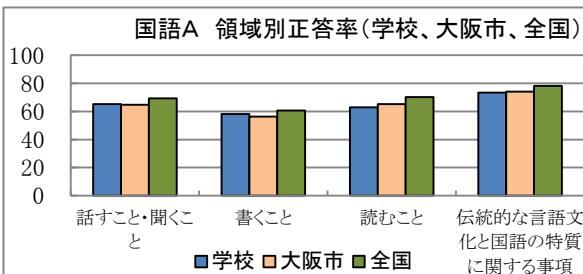
平均無解答率(対全国比)



## 【 国 語 】

A 問 題	平均正答率(%)			
	学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	65.1	64.6
	書くこと	2	58.0	56.2
	読むこと	3	62.9	65.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	73.2	74.0

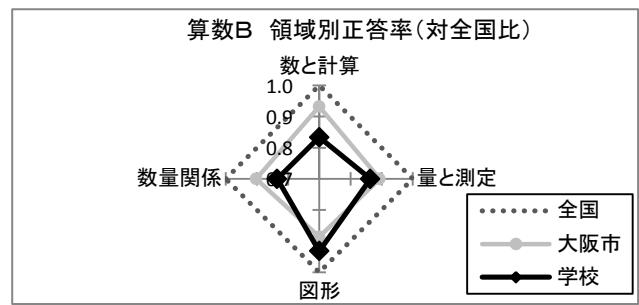
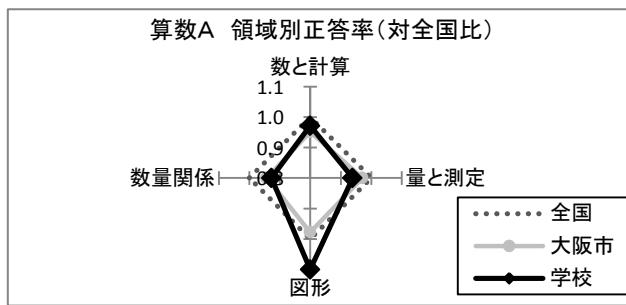
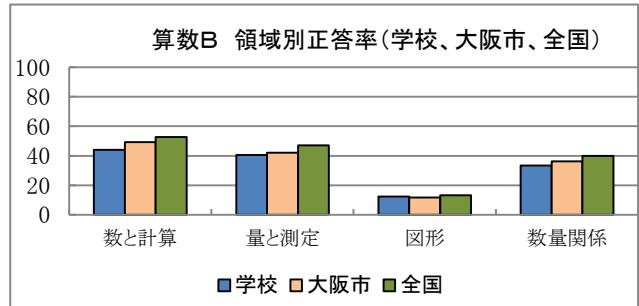
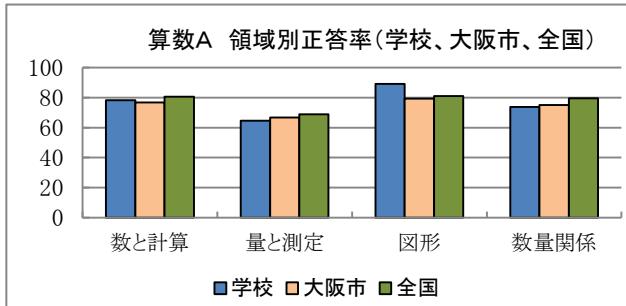
B 問 題	平均正答率(%)			
	学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	56.0	58.4
	書くこと	5	48.7	48.3
	読むこと	3	42.8	45.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—



## 【 算 数 】

A 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	8	78.3	76.7
	量と測定	2	64.6	66.8
	図形	2	89.2	79.3
	数量関係	5	73.8	75.0

B 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	5	44.0	49.2
	量と測定	2	40.6	42.0
	図形	1	12.3	11.7
	数量関係	8	33.4	36.1



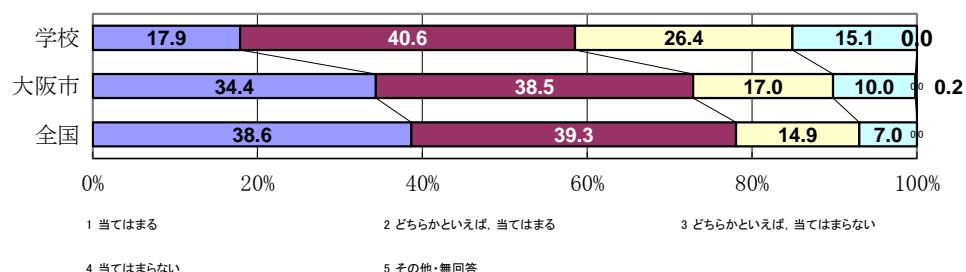
# 児童質問紙より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 □10

質問番号
質問事項

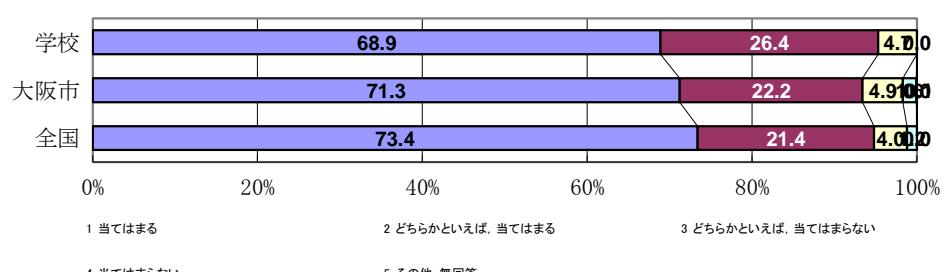
6

自分には、よいところがある  
と思いますか



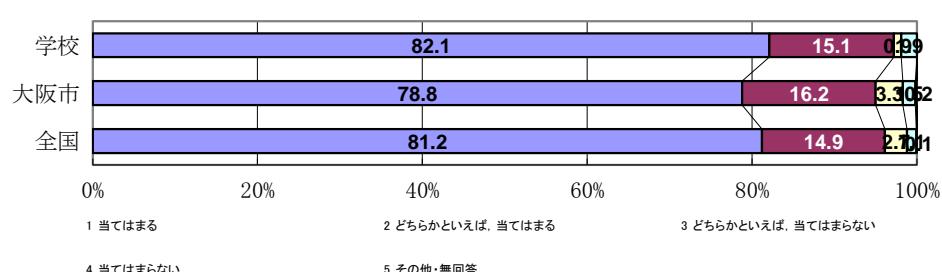
4

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



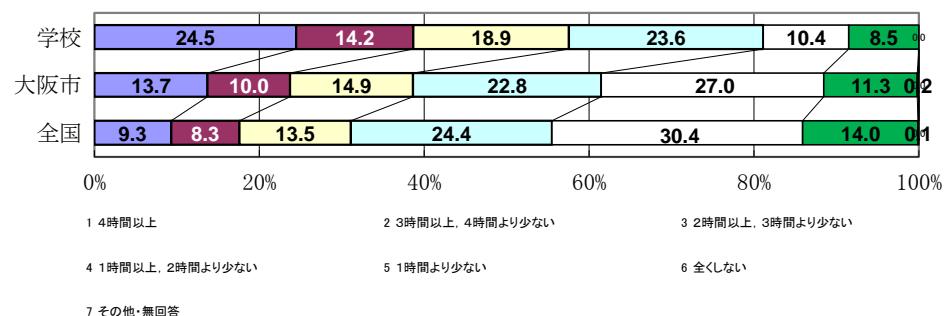
52

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



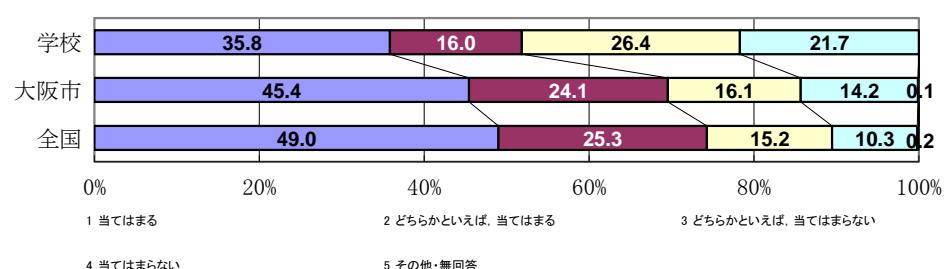
13

普段(月曜日から金曜日),  
1日当たりどれくらいの時間,  
テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式の  
ゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)  
をしますか



72

読書は好きですか



## 学校質問紙より

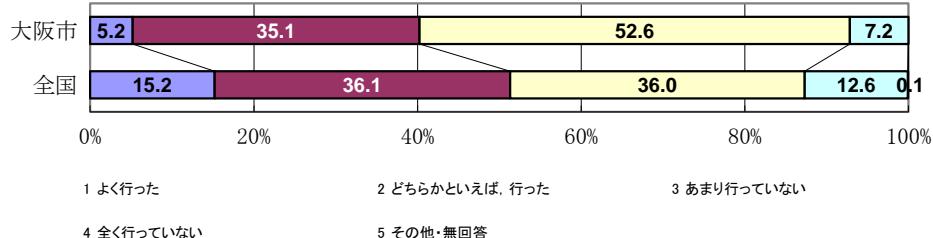
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

78

前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか

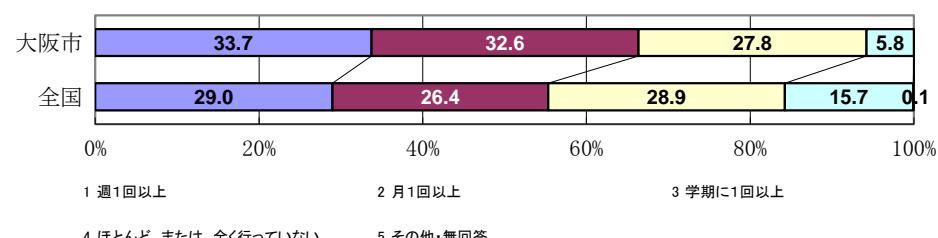
### 学校 「どちらかといえば、行った」を選択



54

調査対象学年の児童に対して、前年度に、算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン(タブレット端末を含む)、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットたどりを指す)を活用した授

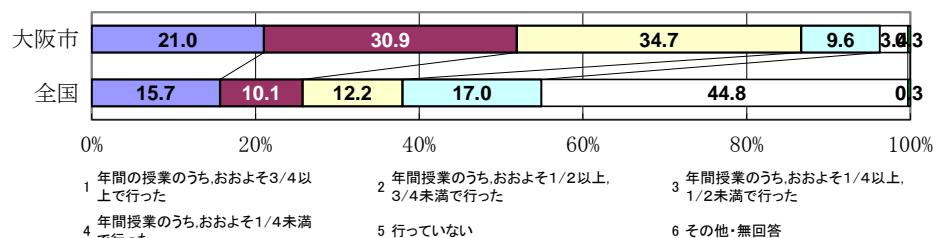
### 学校 「月1回以上」を選択



61

調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか

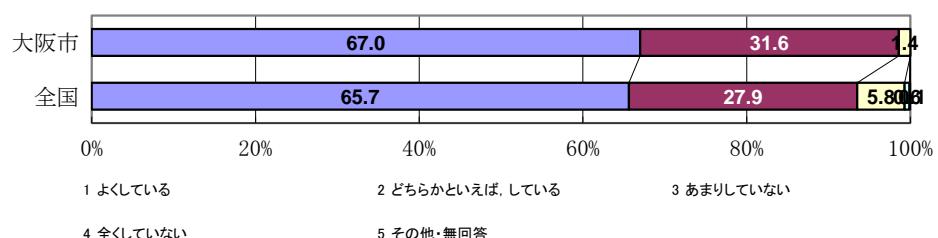
### 学校 「年間の授業のうち、おおよそ3/4以上で行った」を選択



99

学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか

### 学校 「どちらかといえば、している」を選択



87

PTAや地域の人々が学校の諸活動(学校の美化、登下校の見守り、学校行事の支援など)にボランティアとして参加してくれますか

### 学校 「よく参加してくれる」を選択

